

# 平成22年度 (第64回)

# 芭蕉祭

## 一般の部 特選

### ▼有馬朗人 選

手鏡の中までつづく星月夜  
邯鄲の息継ぐ間あり深き闇

奈良市 杉田菜穂  
室蘭市 塚野とよ乃

### ▼稲畑汀子 選

白服に病み上りなる細き腕  
昨夜星の降らせし峡の露深し

福岡県 下田水心子  
伊賀市 北村みち

### ▼茨木和生 選

つややかな空蝉拾ふ遺髪塚  
啓蟄やファスナー白き布を噛む

川西市 田邊富子  
広島市 松原英明

### ▼宇多喜代子 選

水の神火の神祀り夏惜しむ  
墓誌名の文字新しく寒に入る

半田市 土井美津子  
名古屋市長瀬

### ▼岡崎光魚 選

筆の穂に微笑き十方間に入る  
猪垣をかなしきまでに堅く結ぶ

名古屋市長瀬  
松阪市 橋本石火

### ▼鍵和田袖子 選

屋島古道一系乱れぬ蟻の道  
還らぬと知りつつ覗く蟬の穴

高松市 木村日出夫  
目黒区 柴田雅子

### ▼金子兜太 選

沖繩忌内輪話のごとくにか  
土と共余生楽しく苔の花

八王子市 福岡 悟  
ブラジル 佐藤あさ乃

### ▼倉田紘文 選

みちのくへ白雲ながる翁の忌  
舞殿の円座の青き祈雨まつり

松戸市 信夫淑子  
三重県 木戸口真澄

### ▼塩田数柑子 選

早空橋 脚晒す村の黙  
すがる虫遺品の処分抄らず

横浜市 本田真帆  
伊賀市 中西真紀子

### ▼西村和子 選

あらためて妻と見上ぐる今日の月  
この駅で降りたきほどの花堤

御坊市 本田武  
芦屋市 長安悦子

### ▼長谷川權 選

河骨の花のさかりや南谷  
蟻梯子なして働き蟻渡す

兵庫県 坂元初男  
ブラジル 佐藤孝子

### ▼星野椿 選

これからは茄子の馬にて帰る子よ  
フイヨルドの岸に火を焚き夏至祭

室蘭市 工藤朗波  
西尾市 齋藤佳織

### ▼皆川盤水 選

伊賀峠越えてしぐれ忌修しけり  
酔芙蓉八尾の坂町胡弓の音

奈良市 渡辺政子  
伊賀市 橋本米子

### ▼宮田正和 選

水に打ち付けて鵜縄の捌かるる  
植田水丸太一本堰となし

伊賀市 神尾早智子  
伊賀市 浜地和恵

## テーマの部 特選

### ▼片山由美子 選

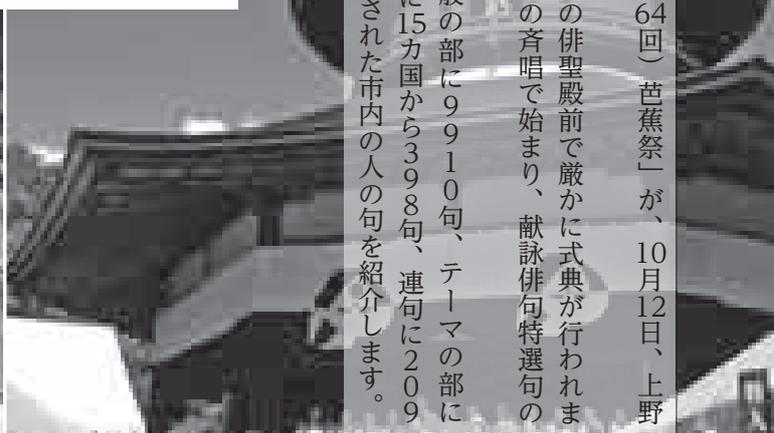
山の神降りて来ませりお花畑  
螢火のうしろ大きな山の闇

札幌市 高崎常子  
伊賀市 米野てるみ

俳聖松尾芭蕉の業績を称え遺徳を偲ぶ「平成22年度(第64回)芭蕉祭」が、10月12日、上野公園を中心に行われました。

芭蕉翁銅像、文学碑への献花、献菓のあと、上野公園内の俳聖殿前で厳かに式典が行われました。式典は「芭蕉祭子ども合唱団」による「芭蕉さん」の斉唱で始まり、献詠俳句特選句の披露、懸額除幕、各受賞者への表彰などが行われました。

今年の献詠俳句は、全国各地および世界各国から一般の部に9910句、テーマの部に2122句、児童生徒の部に3万232句、英語俳句の部に15カ国から398句、連句に209巻の応募がありました。各部門の特選句と一般の部で入選された市内の人の句を紹介します。



児童・生徒の部 特選

【幼稚園・保育園・小学校一〜三年】

▼谷本昌子

西田誠

濱地和恵

藤井充子

山村勝子

共選 (五十音順)

プールってたのしいなまだおよげないけど  
かんらんしゃちかくではなびがさわれそう  
中瀬城東保育園 よしざわひかる  
なつまつりおみせがならびでんしゃみたい  
みどり第二保育園 劉恋  
はかまいりぼくのじいちゃんどんなかお  
久米小一年 かどたせいた  
いつもよりカレーがおいしいきちゃんぶじよう  
上野西小一年 ふじかわせいのすけ  
ぷーるならおんぶできるよおねえちゃん  
三田小一年 おおにしなや

さいごのプールかねが大きくなりました  
高岡市伏木小二年 奥村和哉  
スイゾクカンかいだんの下にさわガニが  
河合小二年 森岡美帆  
えにつきに大きくかいたよかぶとむし  
友生小二年 上島葵  
すいかわりどの声めあてにすすもうか  
中瀬小三年 葛原大聖  
フランスもにほんとおなじせみのこえ  
上野東小三年 小ばし川れん  
猛暑日にだらりとたれるねこの足  
津市三重大学附属小三年 山下桃佳

【小学校四〜六年】

▼喜多富美

永井みよ

東構孝子

福山良子

横田緑子

共選 (五十音順)

目にしみるあせをぬぐえぬ面の中  
上野西小四年 松谷翔太  
光つてるとれたて市の大きさま  
府中小四年 北薫月  
せん果場梨がぐるぐる回つて  
中瀬小四年 蓮池智徳  
ここからは車も行かずホテル飛ぶ  
上野西小五年 中西築  
夏休み日本平で見る夕日  
神戸小五年 大北眞穂  
かけてみる階段にあつたサングラス  
府中小五年 西田汝里  
遠征のバスから見えた夏祭り  
花之木小六年 山口章太  
灯台の大声夏の風に乗る  
秋田県埴川小六年 後藤実優  
道場に猛暑を払う「面」の声  
上野西小六年 山口汐瀧乃

【中学校・高等学校】

▼北村保

北村みち

佐々木綾子

松本ちい

葭葉悦子

共選 (五十音順)

ほおずきの明かり灯して仏待つ  
阿山中一年 福森満月  
グランドに夢もちて立つ春の風  
羽咋市羽咋中一年 長浜大雅  
夏近し潮のにおいが風にのる  
直方市直方第三中一年 濱田琢斗  
糞虫はどこかへゆくよみの揺らし  
名張市北中二年 大西也実  
あかとんぼ父の胸着をくぐりぬけ  
大山田中二年 中森百香  
麦秋の畑はまるで焼きたてパン  
成和中二年 佐藤あゆみ  
陣屋にもにぎやかさ増すつばめかな  
千葉市新宿中三年 染野龍太  
ミンミンと重なる僕のペンの音  
直方市直方第三中三年 田代雄也  
手花火のこぼす火の色水の色  
直方市直方第三中三年 洪川裕二  
あめんぼう川のよどみに草陰に  
長崎市長崎工業三年 吉田愛未  
蝉しぐれ少女らの上に降り注ぐ  
上野高校三年 新居雪恵

連句の部 特選

▼臼杵遊児

近藤篤胆

品川鈴子

松尾博雄

共選 (五十音順)

※半歌仙

『蕎麦の花』の巻

徳島県

東條士郎

捌

三日月に地はおぼる也蕎麦の花  
あるかなきかの風に新涼  
芭蕉翁  
村芝居唄ここぞと座を占めて  
東條士郎  
我を忘るるときの幸せ  
佐藤清幸  
大ぶりのぐい呑み求むカウンター  
浜田茂明  
玻璃に張り付く鮑うごめく  
三輪和  
宵宮に雨の気配の近づきぬ  
清幸  
睫毛にかかる君のため息  
和  
胸がし宇宙止まれと念じたに  
茂明  
成層圏に入るロケット  
士郎  
政争の芥いづこに燃やすべき  
清幸  
魂熱くサツカーを観る  
茂明  
病棟に流るる演歌寒の月  
和  
内輪の祝ひ囲む父母  
清幸  
ナイロビのNPOへ志願して  
士郎  
花明り夢訥訥と語り初め  
和  
遍路の旅は残りわづかに  
茂明  
フルートを吹く背なのうららか  
執筆  
平成22年7月18日 満尾 涓東コンミニュニティセンター



英語俳句の部 特選

in my old tea cup  
these weathered cracks  
winter dawn  
(冬 暁古き湯呑の枯れしひび)  
Bruce Ross (ブルース ロス) アメリカ合衆国

summer's dusk  
the river collecting  
all the sky's color  
(夏夕べ川面にあつむ空のいろ)  
Marjorie Buettner (マージョーエ ビュートウナー) アメリカ合衆国



一般の部 入選

▼稲畑汀子 選

梅雨明の風の軽さでありにけり

佐那具町

子日康子

二日灸据えて卒寿を健康に

平田

中森皎月

睡蓮や森の径とは迷ひ易す

上野丸之内

藤井充子

のどけしや自然に添うてゐる暮し

治田

西田扇女

▼淡木 和生 選

澤瀉の三番草を取りにけり

柘植町

松尾尚泰

▼宇多 喜代子 選

曝涼の鬼面両眼突き貫けて

三田

土井陽代

中吉を引いて良しとす七五三

柏野

和田忠臣

兄さんの大き影踏む餅配り

桐ヶ丘

坂石佳音

めまといに夕日歪みて沈みけり

上野車坂町

海保りつ子

春田うつ芭蕉の句碑の地つづきに

上野車坂町

片山妙子

▼岡崎光魚 選

神楽櫃抽出し二つ霧に閉づ

緑ヶ丘南町

谷本まさ子

尾を絞り夏鷹風となりて消ゆ

三田

西田誠

戯画めくや団扇で蜈蚣追つてをり

西山

川口登子

ほうたるの群火や魍魅をたぢろがす

三田

土井陽代

洛西や御狩の跡の青時雨

西明寺

永井みよ

▼鍵和田柚子 選

埋火や記憶に父の伊勢音頭

森寺

喜多袖子

珠を解く林に源流激つなり

緑ヶ丘南町

谷本まさ子

朱夏の野の瘦身菩薩身を反らし

緑ヶ丘本町

和田美代子

八方に峠ある伊賀鷹渡る

三田

西田誠

▼塩田菘子 選

ロマン秘め鎮まる古墳百千鳥

長田

百北千種

夏帽子紅うすくさし旅の顔

長田

谷出里和

留守の畑荒れ放題の夏の果て

上神戸

森井麗子

▼西村和子 選

水底の石の真白き川施餓鬼

柘植町

澤井とき子

玫瑰やプラットホームだけの駅

佐那具町

西澤与志子

▼長谷川權 選

もう寝よといふ人の無く夜長かな

北山

坪香毅

日本橋虎が雨とはまた嬉し

奥馬野

馬岡裕子

▼星野椿 選

初蟬に山河大きく晴れて来し

山畑

北村みち

みどり濃き山を岐ちて滝一つ

妙楽地

川本和子

虚子百句暗誦したる夏休

上野桑町

福沢義男

振り向けばそこに海あり島遍路

上野忍町

佐々木経子

国宝の薬師如来や額の花

森寺

橋本千代子

海見える部屋に予約の夏料理

四十九町

井上英子

▼皆川盤水 選

家の灯の見ゆる近きや鹿火を焚く

緑ヶ丘南町

谷本まさ子

芭蕉忌や雄島を歩く人ひとり

上野忍町

佐々木経子

荒梅雨や三日見ぬ間の草の丈

柘植町

外山依子

▼宮正和 選

真直なる茎が支へて振り花

山出

菊山時子

茄子胡瓜一と夜の露に太りけり

柘植町

外山依子

寒灯や納屋に馬鍬の厚き鏝

猪田

福井伶子

夏がすみ鶯が鶯呼ぶ谷の奥

千戸

宮谷ふさ子

電工の工具離さぬ三尺寝

柘植町

辻本幸子

夕さりの心耳に届く杜鵑

柘植町

中西昭子

すいとんといふを教はる在祭

馬場

福田容子

炎帝の時にカーテン揺らす風

馬場

小倉秋子

花あけび秘仏にまみえ来しと云ふ

上野車坂町

森中香代子

